

サナダ マサツグ
真田 正次 教授
経営学部 経営学科

■ 研究業績等

【著書】

- ・著書『Accounting Regulation in Japan: Evolution and Development from 2001 to 2015』Routledge (共著):2019/10

【論文】

- ・学術論文「グローバル会計基準の正統性と会計基準設定主体の組織化に関する一考察」会計プロGRESS (13):15-28 (単著):2012/09
- ・学術論文「グローバル会計基準の正統性と言説としての原則主義」会計プロGRESS (14):14-25 (単著):2013/09
- ・学術論文「The Legal Backing for Accounting Standard-Setting in Japan: A Historical Review」Accounting History 23(3):338-359 (単著):2018

キーワード

制度のロジック プリコラージュ IASB IFRS

対応可能なもの ☒ 講演 ☐ 研修 ☐ 研究相談(学術指導) ☐ 学術調査 ☐ コメンテーター ☐ 共同研究・受託研究

どのようにして組織は変化するのか？

研究の概要

本研究は、「制度のロジック」の視点から、国際的な会計基準設定の歴史を再読することを目的としています。国際的な会計基準設定主体である国際会計基準委員会（IASC）あるいは国際会計基準審議会（IASB）の歴史に関しては、すでに多くの研究蓄積が存在しています。それらは組織構造、基準設定アプローチ、および正統性の源泉の変化を明らかにしていますが、これらの変化を必ずしも一貫した視点によって説明できていません。

また、制度派理論組織変化にはたす制度的コンテキストの重要性あるいはダイナミズムを分析しています。特に「制度のロジック」はそのような変化に対して一貫した視点をもたらしていくことができます。そのため、先行研究のギャップを埋めるためには、制度のロジック・アプローチが有効であると考えられます。

研究の詳細

☒ 研究・技術のプロセス ☐ 研究事例 ☐ 研究成果 ☐ 使用用途・応用例 ☐ 今後の展開

本研究のより具体的な目的は、IASC/IASB の組織構造、基準設定アプローチ、および正統性の源泉の変化を「一貫した視点」（制度のロジック）で説明することによって、制度的コンテキストと組織変化のダイナミズムを明らかにすることです。

分析作業を通じて、プロフェッショナル（代表制）ロジックとコーポレート（専門知識）ロジックをベンチマークとして、2000 年代後半から 2010 年代前半の IASB の組織変化の中で IASB 内部のアクターが 2 つのベンチマークの様々な要素を結びつけることによって新たなロジックを作り出していく「制度的プリコラージュ」（Institutional bricolage）のプロセスを析出していきます。

産学官連携先に向けた
アピールポイント

・会計史研究に新たな理論的な枠組みを提示している。